

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 3月 6日

事業所名 子ども発達支援センターこぶし園

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	6	0	0		
	2 職員の配置数は適切である。	5	1	0	・配置数だけでなく児発に携わる職員全てが資格を有している。 ・小集団療育は放課後等デイサービスの職員に応援を頼むことがある。 ・ただし、職員を増やすことでより多くの児童発達支援や保育所等訪問支援が提供できると考える。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	5	1	0	・構造化は個別に応じたものになっている。 ・どのようにしたら分かりやすいのかを職員間で相談し、改善を行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	6	0	0	・清掃は当番制、チェック表を取り入れて日々行われている。 ・毎朝掃除を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	5	1	0	・年に二回総括が行われている。 ・年2回総括を行っている。 ・できるだけPDCAサイクルを実践したいと考えているが、まだまだ改善の余地はあると考える。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	6	0	0	・必ず保護者に回答するようにしている。 ・今年はアンケートの時期にコロナが感染拡大し収集が難しい印象がある。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	6	0	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	1	1	4	・第三者委員は配置しているが、実際に要請した事はほとんどない。評議委員会等を利用して行って行きたい。 ・第三者による評価はコストが高いため、なんらかの工夫が必要と考える。	・法人全体の課題として今後検討したい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	5	1	0	・今年度は1人1研修は実現できている。 ・法人内で事例検討会を行った。 ・外部研修などを利用してはいるが、内部研修をもっと充実させたい。	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	6	0	0		

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	5	1	0	・Vinelandはまだ部分的にしか使えていない。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	6	0	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	6	0	0	・必要に応じて計画を改善している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている。	3	3	0	・グループ活動の後に振り返りの時間を必ず作って携わった職員同士で話し合い、次のプログラムに生かしている。 ・小集団療育の活動はリーダーの職員が考えているが、改善点などは話し合っている。 ・集団療育はチームで立案しているが、個別療育はなかなかチームで確認する時間を確保できない。	・担当職員を中心としながら、チームで確認し検討していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	6	0	0	・活動の後の振り返りの時間を大事にするようにしている。 ・1つの活動を1回で終わらせず、継続して行うようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している。	6	0	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	3	2	1	・打ち合わせは前日に行うことが多い ・日案は作成して配布しているが、開始前に集まって確認をすることはない。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	3	2	1	・前日に行なっている。日案を用意して役割等を事前に説明している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	6	0	0	・小集団療育の活動後、振り返りを行い、個別、全体の記録を記入している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	4	1	1		
関	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	6	0	0	・担当者が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	6	0	0	・必要に応じて支援者会議を行なっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	0	3	3	・当事業所に該当する児童がいない。 ・医ケアの子を受け入れていない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。	1	2	3	・上記に同じ ・医ケアの子を受け入れていない。	

係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	6	0	0	・音頭を取るのは相談支援員の場合が多い。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	5	1	0	・学校により、移行支援の必要性に対して温度差がある。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	3	3	0		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある。	0	0	6	・施設の特徴上、実現には無理がある。	・個別療育が中心なので、実施は難しいと考えている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	6	0	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	6	0	0	・療育の中で行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	5	1	0		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	6	0	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	6	0	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	6	0	0	・子どもさんの療育の前後どちらかで行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	3	2	1	・家族会は中学校から入ってもらうことになっているが、保護者の方のグループワークを行なっている。 ・卒園した利用者の保護者の方のグループワークを行っている。 ・コロナ禍により保護者会が開催されていない。	・小集団療育利用の保護者の方や、卒園したお子さんの保護者の方にグループワークを行っている。 ・家族会等の法人行事については、新型コロナウイルス感染症対策のため行わなかった。今後は感染状況を踏まえながら開催を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	6	0	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	6	0	0	・小集団療育は1ヶ月前に次月の月案を配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している。	6	0	0	・事業所の広報誌に掲載する時には保護者の同意を得てから行なっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	4	2	0	・視覚や聴覚に障がいがある場合の対応が課題である。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	0	2	4	・現在コロナ禍により実施できていない。	・新型コロナウイルス感染症対策のため、行事を行わなかった。今後は感染状況を踏まえながら開催を検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練は行っているが、児童を巻き込んだ訓練は実施できていない。 ・マニュアルは玄関に掲示している。 ・児童発達支援では訓練は行っていない。 ・毎年少しずつ改善を試みているが、まだ課題は残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や緊急時対応等は毎月行っているが、放課後等デイサービスが主なので、今後は防火管理責任者を中心としながら実施を検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	4	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度行っている。 ・児童発達支援では訓練は行っていない。 	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	5	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡表に記入する項目がある。 	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	0	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から聞くに留まっている。 ・現在アレルギーのお子さんに食物提供する場面がない。 	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	5	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例は記録して、職員に周知している。 ・ヒヤリハットのマップに書き込むようにしている。 	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	5	1	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	5	0	1		